

# ～若年層の声なき悩みを発見する～

平成30年地域政策研究センター地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名： 若年層の悩みに関する意識調査—自殺予防を見据えた取組み

研究代表者：研究代表者 川乗賀也（社会福祉学部）

課題提案者：石井里美、小川文子（盛岡市保健所保健予防課）

研究メンバー：富澤浩樹（ソフトウェア情報学部）

技術キーワード：相談、自殺予防、SNS、若者

## ▼研究の概要（背景・目標）

岩手県では全体として自殺者数は減少しているが、若者においては微増傾向にある。本研究においては若者に利用率の高いSNSをつかった相談方法の可能性を検討する基礎研究を目的とした。

## ▼研究の内容（方法・経過）

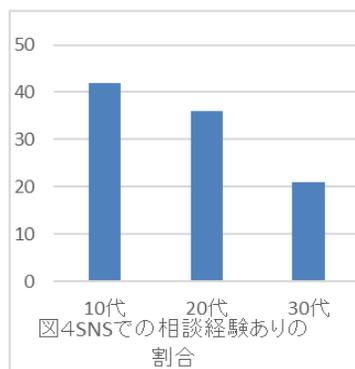
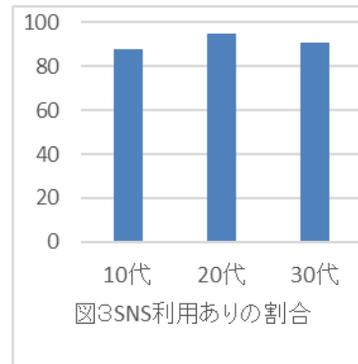
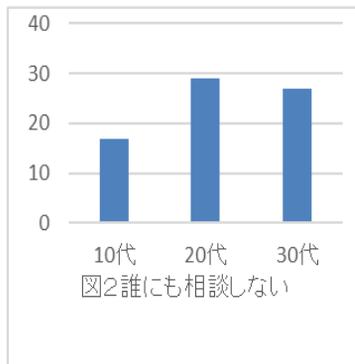
1. 調査対象は15歳～39歳までとし盛岡市内の高等学校、専門学校、大学に通う学生及び市民の協力を受けて、SNSでの相談経験について調査票を配布した。これらを分析し若者が悩みを抱えた際に検索するキーワードの探索をおこなう。また、盛岡市にある既存の相談資源について、悩みに種類に応じて相談できる資源を紹介できる二次元バーコードを作成し盛岡市内で配布した。

## ▼研究の成果（結論・考察）

1. アンケート協力者は10代925名、20代228、30代129名であった。性別は男性が629名、女性が641名である。図1は各年代における悩み事の多い順であるが学業や仕事といった主たる職業が多いことがわかる。また、図2では悩み事があっても相談しない、またはほとんどしない人の割合であるが10代が相談しない割合が低く20～30代で割合が高くなっている。

	1位	2位	3位
10代	学業	将来のこと	対人関係
20代	仕事	将来のこと	悩み事はない
30代	仕事	家族のこと	将来のこと

図1 各年代における悩み事



「不眠対策」眠れない時のポイントまで



うつ病とは

図5 配布されたところの健康相談カードQRコード【平成31年1月539件のアクセス(前年同月249件)】

## ▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 本調査においてSNSを使った相談について有効である可能性が示唆された。今後の展開として、既存手段の状況を把握するとともに、その「こころの健康情報」へのアクセスにかかる課題について整理する。さらに、実際の若者の相談傾向や、若者に対するアプローチ方法を把握するために、専門相談機関に対してヒアリング調査を行う。また、全国で行われている類似事例の調査、文献の収集を行い、SNSチャットボットを用いた相談窓口への誘導方法について検討する。その上でシステム開発を行い、自殺予防に効果的なシステムのあり方を探ることとする。